



「慈愛ある知性」を

人類は待望

ロッキー山脈の白い峰々が、青空に浮かぶように輝いていた。

「女王都市」とたたえられるアメリカ・コロラド州デンバー市。1996年（平成8年）6月、池田名誉会長は、デンバー大学「名誉教育学博士号」の授与式のため、同

市を訪れていた。写真は、その折に撮った1枚である。

天上に山があれば、その頂へ。水平線があれば、その彼方へ。漆黒の宇宙を見れば、その果てまでも——未知を征服せんとするのは人間の人間たる証し。宗教もまた、

「生命」という妙なる実在を究めんとする営みの中で生まれた。

閉ざされた主観に安住せず、知を求め、知との対話によって、信を深め、人間の完成と平和の社会を目指す——ここに、名誉会長の示す世界宗教の条件がある。



世界の知性の殿堂・アメリカのハーバード大学で、「21世紀文明と大乘仏教」と題して2度目の講演を行う池田名誉会長。「生命観、生死観、文化観の確立こそ、21世紀の最大の課題となってくる」と（1993年9月）

単に「生きている」だけなら、
わざわざ苦しい山登りなど
する必要はない。
登山は、
あえて「困難に挑もう」とする
文明人の行為である。
宗教もまた、
単に「生存している」だけなら

必要ないかもしれない。
しかし「よりよく生きよう！」
「より高い境涯に登ろう！」
とした時、
正しい宗教が必要となる。
登山が文明人の行為であるごとく、
宗教も
文化人、文明人の証しなのである。

「知性なき宗教」は独善になる。
しかし、単なる「知性」だけでは、
「幸福」を生めない。
「知性」が人類に
欠けているのではなく、
欠けているのは
「慈愛をもった知性」である。
つまり「智慧」である。
これを広げるのが広宣流布である。

ただ純真というだけでは、
縁に紛動されやすく、
悪しき権威に利用されやすい。
自分自身できちんと
正邪を見極めていける、
確かなる信仰者を
一人でも多くつくっていく――
これが今、最も正しく、
最も大事な将来への道である。

「学は光」であり、
「知は力」である。
学理、道理には、
国境を超えて、万人を納得させる
普遍的な光がある。
暴君さえも屈服させる
正義の力がある。
学ぶのだ、民衆のために！
学ぶのだ、勝利のために！
「悩める一人を幸福にするため」に
貪欲に学ぶのだ。